

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中の部

令和三年度八月 入賞句一覧

投句数 千二百九句

高木 佐知子 選

特選



たうえきもわたしもどろんこお茶は空

大垣市

安田 奈緒（小四）

今度の日曜日は田植えと決めて、家族全員でにぎやかに田植えをしている様子が想像できます。どろんこになって田植えの手伝いをしていている作者は、きつと笑顔でしょう。いつばい汗をかいて飲むお茶は、おいしいでしょうね。「お茶は空」の下五が、この一句をより明るく楽しくしています。

きゆうりをねあらつてたべた音がいい

大垣市

とみ田 一き（小二）

夏野菜と言えば、ナス、きゅうり、トマト、オクラ、とうもろこしなどおいしいものがたくさんあります。畑で育てたきゅうりの土を洗って食べた時の音が聞こえてきそうです。作者には、夏の楽しみの一つがこれだったのでしよう。きゅうりをかじつたいい音がどんな音なのか想像しながら読むことができる楽しい一句です。

青葉風右へ左へ葉がおどる

大垣市

柴山 真緒（小六）

夏の日射しを受けて緑が濃くなつた青葉の中を吹きぬける風は、さわやかで気持ちのいいものです。その風に吹かれて木々の葉が楽しそうに揺れていると感じた作者の心持が素敵です。「右へ左へ」という中七は、風の強さではなく風の軽やかさを表わしているのでしょうか。明るくさわやかな一句になりました。

秀逸

水面ゆれ見つけたアメンボもういない

大垣市

桐山 佳大（小六）

セミさんが俳句を聞いて鳴きだした

大垣市

千田 桃彩（小六）

ピーマンはぼくもすきだよにがいけど

大垣市

青い 元すけ（小二）

夏空の真下で共に指をおる

大垣市

栗原 拓（小六）

つゆはれ間空を見上げて細目なる

大垣市

宮崎 信（小六）

夏の上に上からセミの声が降る

大垣市

中原 陽彩（小六）

頭はね俳句でいつぱいつゆ雲り

大垣市

清水 蒼葉（小六）

無観客選手の背おす蝉しぐれ

加茂郡川辺町

伊藤 桃佳（中一）

授業中私の邪魔をする蚊たち

加茂郡川辺町

村田 果杏（中二）

トマトさんはやくとつてとまっつか

大垣市

とみた まお（小二）

入選

大きなこい水草ぬてけ顔を出す

大垣市

島田 芽依（小六）

再テストなかなかうからず梅雨ぐもり

大垣市

川井 康平（小六）

ばしよの葉夏空向かいのびていく

大垣市

中山 舞悠香（小六）

耳すませあおばのこえがきこえるよ

大垣市

近澤 航之祐（小六）

はいくよむあおばがゆれるその下で

大垣市

宮川 実空（小六）

雨上がりしずくが垂れる青葉道

大垣市

河野 恵（小六）

あめあがり青葉がうつる水たまり

大垣市

安田 幸司（小六）

ひまわりだきいろのかおでにつこにこ

大垣市

いな川 太一（小二）

カタツムリ雨の日ぬるぬるごきげんだ

大垣市

岡崎 光我（小五）

かたつむり雨を待つてて顔を出す

大垣市

森川 アビゲル（小五）

あたたかい体くすぐる夏の風

大垣市

和田 蒼平（小六）

夏ぼうし帰り道にて群れをなす

大垣市

森 翔太郎（小六）

夏の川みなもにうつる友の顔

大垣市

小川 ひなた（小六）

錦鯉えさまちながら人もまつ

大垣市

杉原 希菜子（小六）

夏の川こいがしずかにかくれてる

大垣市

吉田 彩瑚（小六）

ばしようさん青葉の屋根で一休み

大垣市

栗田 妃乃（小六）

ようこそとせみのなき声ぼくをよぶ

大垣市

説田 廉（小六）

六月の雨の音色が響き合う

加茂郡川辺町

佐伯 颯太（中二）

流れ星願いをこめた三秒間

加茂郡川辺町

田原 莓花（中二）

とうさんとりょうりがたのしいキャンプかな

大垣市

市川 椋一（小二）

選者吟

赤とんぼ水の都の道案内

佐知子



小中の部